

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・4月はゴールデンウィーク前の閑散期であるが、客の様子をみると、買上点数が3か月前と比べて増えている。客単価も4月にしては高い。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・4月の外国人観光客の動きをみると、タイの旧正月の時期に例年にないほどの来客があった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・リンゴ以外の果物の収穫量が減少している影響なのか、リンゴの販売量が増加傾向にある。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・国内客の客単価が3年前の116%と伸びており、アベノミクスの効果が感じられる。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・特選ブランド品や時計など、高単価商材の販売量が増加している上、商品単価の高い商材ほど、人氣が集中する傾向がみられる。
		百貨店（担当者）	単価の動き	・3月の買い控えの反動もあり、年度始まりに伴う購買ニーズが高まってきている。また、前月のショップのオープン効果や4月の近隣商業施設におけるアニメーション企画の影響もあり、施設相互の回遊効果で客単価も上向いている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・4月に入り来客数は微増の状態が続いている一方で、客単価が大きく伸びており、全体としてプラスで推移している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・気温が上昇し、春らしい季節となったことで春物衣料を中心に来客数が増加傾向となっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前と比べると、来客数の前年比が5%ほど回復している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年よりも減少するなど、厳しい状況ではあるが、前年比をみると3か月前よりは回復している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・これからクールビズ商戦に入るが、先物の動きが良く、例年と比べて客の購買意欲が高い。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新年度になり、人の流れも良くなっていることから、飲食店における動向としては景気が良くなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・大型スポーツイベントやコンサートの効果もあり、全体的に好調に推移した。アジアからの観光ツアーも催行率が50%を超えているなど、堅調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・例年4月は観光の端境期となり、航空機利用者が減少する月となる。また、ビジネス客も会社や行政組織などの人事異動時期と重なるため、商談などの出張が減少する。ただ、今年は例年ほどの落ち込みがみられず、景気はやや良くなっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して天候不良の日が少ないことから、外国人観光客を主体として観光客の入込が増加している。また、大型クルーズ客船の寄港や大型コンサートなどが相次いでいる効果もあり、当施設の利用乗降客は増加している。4月27日時点の利用乗降客数は前年比116.2%であった。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・4月中旬以降、観光客が増加傾向にある。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・例年と比較して雪解けが早く進んでいることで、客のムードが良くなっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・これまでと同じように客の反応に変化がみられない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・地元客の動向は例年とほぼ変わらない。一方、観光客の動向はレンタカー及び区域内の駐車場の状況から、前年よりも増加しているような兆候がみられない。また、季節的要因である入学、進学、就職などに伴う買物客も区域内の百貨店の入込状況を確認する限り、例年よりも減少傾向にある。
		スーパー（店長）	単価の動き	・これまで前年割れが続いていた来客数が回復傾向にあるものの、客単価が低下傾向にある。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・競合のディスカウントショップの状況が一巡して落ち着いてきているため、前年と同様の状態で推移している。	

	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・周りの多くの主婦は、国が物価が上がって暮らしが苦しくなるような方針ばかりを採っているように感じている。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・5か月前のディスカウントストアの出店以降、客の買い回りが増加している。来客数の減少やここ数か月の野菜の相場安の影響などもあり、売上の落ち込みがみられるなど、景気はやや悪い状態が続いている。4月の来客数は前年を1.5%ほど下回って推移している。ゴールデンウィークに入る月末までまだ数日あるが、売上は前年を僅かに下回る見通しである。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・年金支給日のまとめ買いやぜいたく品の購入を期待していたが、盛り上がりえずに終了してしまった。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている。ゴールデンウィーク期間も天候が良かった割に来客数は余り伸びなかった。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・4月前半の来客数は前年と比較してやや減少した。後半になり、来客数と売上は持ち直してきているが、全体的に客単価が上がってこないため、景気は変わらない。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車共に受注台数、販売台数が上向きになってこない。新型車が出ないこと、市場が停滞していることが影響している。また、上期の車検対象台数が少ないことでサービス売上も減少しており、全体的に景気の悪い状態が続いている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・これといった好材料もなく、ここまで変わらないまま推移している。5月以降はやや良くなることを期待している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量が前年とほぼ同じであり、景気は変わらない。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・競合店も同じだが、来客数が前年並みとなっている一方で、客単価は前年のタイヤの値上げの影響もあり、前年比105%で推移している。ただ、前年のタイヤの値上げに伴い、既に打てる施策は行っていることから、経営環境的には厳しい状態にある。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて特に大きな変化はみられない。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・外国人客を含めて開店から順調な来客がみられ、ランチはほぼ満席となる。一方、ディナーは高単価のコース料理の注文が入らない限り、売上が上がらない。4月中旬まで売上は前年を下回っていたが、下旬に入りばん回し、月全体では前年を3%上回った。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年と比べて景気はやや悪い。特に4月後半はランチを中心に客入りが良くなかった。例年、ゴールデンウィーク前後は来客数が減少する傾向にあるが、今年はその傾向が特に顕著であった。また、これまで食材を割安で卸してくれていた業者が値上げを宣告してきたが、定番メニューは値上げできないため、ひとまず週替わりメニューだけを客に勧めるようにしている。知人の飲食店では、4月前半の気温の上昇とともに冷たいそばの販売量が増えるなど、調子が良かったにもかかわらず、後半以降はなぜか客足が鈍ったとのことであった。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・不動産業及び建設関係の客は好調を維持している。間際の団体需要も生じている。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・客との会話のなかで、特に景気に触れるような会話もみられないため、景気は変わらない。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・店舗を新規オープンした形となっているため、以前と比べて来客数が減っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・業界全体ではほぼ前年並みの数字を維持しているが、労働者不足が顕著であり、余り景気の良い状態とはいえない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今年は積雪が少なかったことから、春物商材の購買が好調であり、それに伴い人の動きが良くなっている。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・例年、春商戦の続いている時期であるが、今年は思ったほどの伸びがみられなかった。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・客の来店周期及び支払額共に変化がなく、この数か月間、同じような数字で推移している。

	美容室（経営者）	お客様の様子	・例年どおり、春から初夏にかけて旅行を予定している客がみられることから、景気の変化は余り感じられない。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・予定に合わせて来店する客が多く、特に景気の良さを感じられない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、来客数が減少した。	
	百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・婦人服を中心に、買上客数、販売点数が減少している。客単価は上がっていることから、顧客中心の買上となっており、フリー客の需要を取り込めていないとみられる。	
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・買上客数の動きをみると、3月に前年を大きく下回り、4月に入ってもその傾向が変わっていない。生活防衛意識の高まりから、客の買物頻度が落ちている。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・たばこやアルコールなどの嗜好品の売上が減っており、必要のない物は買わないという流れが強まっている。来客数の動きが売上よりも先行していたことから、本当にお金を使っていない状況がうかがえる。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・全体的に来客数が減少している。地域の人口減少が起因している。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が減少していることに加えて、客単価も下がっている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道の場合、4月はタイヤ交換の時期となるため、客の来店が多く、車の乗換えにつながることも多いが、春先需要の最盛期である1～3月を過ぎ、これから夏に向けて段々と売上の落ちてくる時期であるため、景気が良くなっているというわけではない。	
	その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・高齢の顧客の反応が鈍く、売上が天候に左右されている。顧客開拓が今後に向けての課題となってきた。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・客足がやや遠のいている。例年、歓送迎会、送別会の行われる時期であるが、この頃は個人的に行うことはあっても、会社として行うことが少なくなっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・国内観光客や外国人観光客の来客数がやや減少している。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・4月の売上は3か月前と比較して15%程度の落ち込みとなり、厳しい状況に変わりが無い。例年はないほどの落ち込みであったため、5月以降、どのように推移するか予想がつかない。これからの観光シーズンに向けて期待するだけである。	
	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・4月に入り競合他社の格安通信プランへの顧客流出が急増している。様々な対策を打っているが、流出に歯止めが掛かっていないことから、景気はやや悪くなっている。	
	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・分譲マンションのモデルルームへの来客数がやや減少傾向で推移している。	
	x	コンビニ（オーナー）	それ以外	・自社、他社を問わず周りで競合店の出店が多すぎる。ドラッグストアの出店も多く、景気は悪くなっている。
	x	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が明らかな減少傾向にある。
	x	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・国内客、外国人観光客、団体客、個人客のいずれも動きが非常に鈍い。
	x	タクシー運転手	来客数の動き	・例年と同じように4月の雪解けとともにタクシーの利用が激減している。4月の当社の売上は、タクシー1台当たりでは約3%のプラスであったが、前年よりも10%減車していることから、会社としての売上は約6%のマイナスであった。
	x	タクシー運転手	販売量の動き	・4月は送別会などのイベントで夜間需要が多く発生する時期であるが、今年の運行本数は前年を大幅に下回った。
企業動向関連	-	-	-	
(北海道)	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・建設資材単価はほぼ均衡状態にあるが、冬場に首都圏へ出稼ぎに行った労務者が春になっても戻ってこないことの影響もあり、労務者単価が上昇している。	
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越し工事もあるため、年度初めより現場はフル稼働状態となっており、好調なスタートを切っている。	

	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・雪解けに合わせて物流量が微増している。4月1日からの受注価格改定の動きも一部であり、収支面も改善されてきている。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、需要の立ち上がりが堅調であり、受注量が増加傾向にある。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・冬場の稼働日数の少なかった時期と比べて、商材の動きが良くなっている。決算月を迎えた影響もあり、受注量が増加している。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月の販売量は前年比マイナス0.9%であり、3か月前の1月の販売量の前年比マイナス0.5%とほぼ変わらない水準であるため、景気は変わらない。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・百貨店などの小売店舗に対する卸売が低迷している。また、政治への不信感や地方都市における少子高齢化の加速など、景気のプラス要因が全く見えてこない。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・原材料価格や人件費の上昇が企業収益を圧迫している。個人消費も原油高を背景としたエネルギー価格の高止まりから力強さを欠いており、公共投資も減少に転じている。一方、堅調な外国人観光客による消費と民間設備投資が景気を押し上げており、道内景気は3か月前から横ばいでの推移となっている。
	司法書士	取引先の様子	・4月に入り、建物の建築が上向き傾向となっており、これに伴って土地取引などの動きも上向き傾向となっているが、例年どおりの流れであり、景気が上向いているとは判断できない。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引の成約数が伸びない。熟練作業員の不足により、土地を購入しても建物の完成まで時間が掛かるため、年間の受注量が制限されることが多く、景気は伸び悩んでいる。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先の様子をみると、全国展開している企業では東京オリンピック効果で首都圏の業績が伸びているようだが、北海道の業績は横ばいで推移している。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き受注量は前年比で10%程度の伸びを示しているが、伸び率が鈍化傾向にある。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比較して売上が1割ほど落ち込んだ状態が続いている。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比べて個人住宅の新築、不動産の売買が少ない。
	×	*	*
雇用関連	-	-	-
(北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・販売促進、キャンペーンなどの売上確保に関連した派遣需要が前年よりも20%増加しており、企業業績の好調さがうかがえる。求人についても、管理系、営業系、IT系の人材ニーズが旺盛なことから、企業業績が好調を維持していることがうかがえる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・業種を問わず、人材確保に力を入れ始めている企業が増えている。ただ、設備投資や待遇改善を積極的に行ってまで、人材を確保したいと考える企業は少ない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・外国人観光客及び国内観光客の増加に伴い、地元のサービス業においても好調な様子が見られる。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・道内各企業の新卒者への内定出しが前年よりも早くなっている上、その件数も増加している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・客先から数年前と比べて応募者が激減したとの声を聞くことが増えている。飲食業や物販業などでは、経営者から諦めにも似た声が聞かれ始めている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が6年5か月連続で前年を下回り、月間有効求人数は1年2か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.09倍と前年を8年1か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の有効求人倍率は1.07倍であり、前年を0.10ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の有効求人倍率が1倍を超えている状況は続いているが、更新求人の割合が高いため、景気は変わらない。

	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・求人情数が若干減ってきている。その影響なのか、以前よりも応募者が増加しており、採用につながっている事業所が出始めている。4月はスーパーなどの小売、ファッション系、宿泊業の求人が前年を上回った。
	x	-	-